

4課

1月28日

# イエスのための<sup>ささ</sup>献げ物



▶マラキ書 3 : 10

**十分の一 the tithes の献げ物**をすべて倉に運び／わたしの家に食物があるようにせよ。これによって、わたしを試してみよと／万軍の主は言われる。必ず、わたしはあなたたちのために／天の窓を開き／祝福を限りなく注ぐであろう。

[参考]什一：古代中国の井田法で、徴収する収穫の10分の1の地租  
tithe：十分の一税

→創世記 14 : 20

敵をあなたの手に渡された／いと高き神がたたえられますように。」アブラムはすべての物の**十分の一 tithes**を彼（→いと高き神の祭司であったサレムの王メルキゼデク※1）に贈った。

→創世記 28 : 21～22

無事に父の家に帰らせてくださり、主がわたし（→ヤコブ）の神となられるなら、わたしが記念碑として立てたこの石を神の家とし、すべて、あなたがわたしに与えられるものの十分の一をささげます。

K J B : I will surely give **the tenth** unto thee(=you).

NKJV : I will surely give **a tenth(=tithe)** to You.※2

※1 : **メルキゼデク**という名の意味は、まず「**義の王**」、次に「**サレムの王**」、つまり「**平和の王**」です（ヘブライ人への手紙 7 : 2b）。

※2 : K J B : KING JAMES BIBLE 欽定訳、NKJV : New King James Version

▶ 献げ物 (申命記 16 : 16~17) |

男子はすべて、年に三度、すなわち **除酵祭、七週祭、仮庵祭** に、あなたの神、主の御前、主の選ばれる場所に出ねばならない。ただし、何も持たずに主の御前に出てはならない。

あなたの**神**、主より受けた祝福に応じて、それぞれ、**献げ物**を携えなさい。

Every man shall give as he is able, according to the blessing of the LORD thy **God** which he hath given thee.

あなたの神、主があなたに与えられた祝福に応じて、おのおの手ずからの**贈り物**をしなければならぬ。

(聖書英文は KING JAMES BIBLE 欽定訳 / 聖書協会共同訳)

太陽暦	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月 (ヘブライ暦)	第一の月	第二の月	第三の月	第四の月	第五の月	第六の月	第七の月	第八の月	第九の月	第十の月	第十一の月	第十二の月	
ユダヤ暦	ニサン Nisan, Nissan	イヤール Iyyar	シパン Siwan, Sivan	タムズ Tammuz	ア ブ Abh, Av	エルール Elul	ティシュリ Tishri	マルヘ シュバン Marcheshvan	キスレーヴ Kislev, Kislev	テベット T'ebheth	シュバット Šebhat	アダール Adhar, Adar	
バビロニアの月名 ( ): カナンの古称	ニサン (アビブ)	イヤール (ジウ)	シワン	タンムズ	ア ブ	エルル	ティシュリ (エタニム)	ヘシュワン (ブ)	キスレウ	テベト	シェバト	アダール	
主な行事	←← 七週間 →→		七週祭 (シャブオット)    五旬祭 (ペンテコステ Pentecoste ギリシア語) ※ユダヤの三大祭: 過越祭、七週祭、仮庵祭				1: 新年 新年祭 (ロシュ・ハシャナ) 10: 大贖罪日 (ヨム・キップール) 15~21: 仮庵祭 (スコット)			25: 宮清めの祭 (光の祭り、ハヌカ) (25日~8日間)		©H.Taniguchi	
	14~21 過越祭 (ベサハ) 除酵祭		→ 過越祭 (ニサン月の14~21日) { ① 過越祭 (過越しの祭り): ニサン月の14日の日没~15日の日没 ② 除酵祭 (種を入れないパンの祭り): 15日の日没~21日の日没										

▶新約聖書に登場する「献金」を含む聖句

タイトル(書名)	章:節 聖句 <u>〔検索対象総数：5 / 聖句等の総数 33250 〈献金〉5個〕</u>	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙：献金]
S マルコによる福音書	◆やもめの献金 →12：41～44	
S ルカによる福音書	◆やもめの献金 →21：1～4	
S ルカによる福音書	21:1 イエスは目を上げて、金持ちたちが賽銭箱に献金を入れるのを見ておられた。	
S ルカによる福音書	21:4 あの金持ちたちは皆、有り余る中から献金したが、この人は、乏しい中から持っている生活費を全部入れたからである。」	
S コリント信徒への手紙Ⅱ	◆エルサレムの信徒のための献金 →9：1～15	

▶やもめの献金（マルコによる福音書 12：41～44、ルカ 21：1～4）

イエスは（婦人の庭[女性の中庭]に設置された）賽銭箱（→the treasury: 宝物庫、聖書協会共同訳：献金箱）の向かいに座って、群衆がそれに<sup>かね</sup>金を入れる様子を見ておられた。大勢の金持ちがたくさん入れていた。ところが、一人の貧しいやもめが来て、レプトン銅貨二枚（→1デナリオンの1/128×2枚=1デナリオンの1/64）、すなわち一クアドランス（→ローマの青銅貨、1デナリオンの1/64）を入れた。イエスは、弟子たちを呼び寄せて言われた。「はっきり言うておく。この貧しいやもめは、賽銭箱に入れている人の中で、だれよりもたくさん入れた。皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れたからである。」

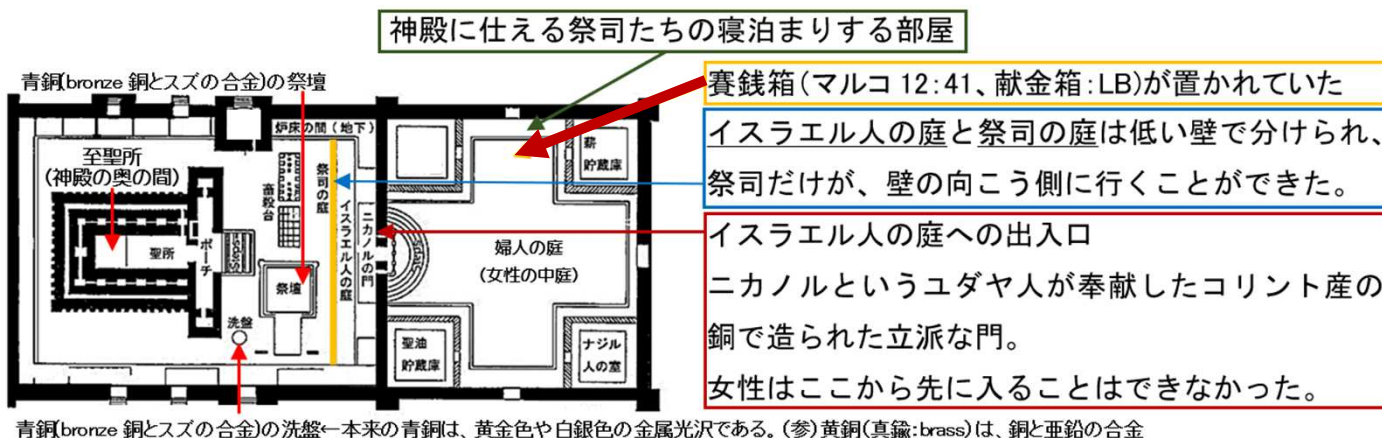


→賽：「神から福を受けたのに感謝して祭る」の意味

彼女は宮の奉仕が神に定められたものであることを信じていたので、それをささえるために全力をつくそうと願った。彼女は自分のできることをした。彼女のこの行為は、各時代を通じて彼女の思い出の記念となり、また永遠にわたって彼女の喜びとなるのであった。彼女はささげ物といっしょに心をささげた。そのささげ物の価値は、貨幣の価値によってではなく、彼女の行為の動機となった神への愛とそのみわざに対する関心によってはかられた（希望への光 P.995、各時代の希望 下 P.69）。

（心構え、感情）

列王記下	12:10 祭司ヨヤダは一つの箱を持って来て、その蓋に穴をあけ、主の神殿の入り口の右側、祭壇の傍らにそれを置いた。入り口を守る祭司たちは、主の神殿にもたらされるすべての献金をそこに入れた。
列王記下	12:11 箱の中に献金が集まったのが認められると、王の書記官と大祭司が上って来て、主の神殿にあるその献金を袋に入れて数えた。
列王記下	12:17 賠償の献げ物のための献金、贖罪の献げ物のための献金は、主の神殿に納入されず、祭司たちのものとなった。
歴代誌下	24:11 その箱がレビ人によって運び込まれ、王の監査にかけられるとき、献金が集まっているのが認められると、王の書記官と祭司長の代表が来て箱を空け、また持って行って元の場所に戻しておいた。毎日このようにして、彼らは多くの献金を集めた。



婦人の庭は、数千人の礼拝者(男女)が入ることができたが、女性はこの先には行けなかった。

▶詩編 96 : 8~9

御名の栄光を主に帰せよ。**供え物**を携えて神の庭に入り／聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ。全地よ、御前におののけ。

→**ダビデの祈り**の一節（歴代誌上 29 : 14）このような寄進ができるとしても、わたしなど果たして何者でしょう、わたしの民など何者でしょう。すべてはあなたからいただいたもの、わたしたちは御手から受け取って、差し出したにすぎません。

**【参考】** 聖書に登場する「献金」「十分の一」「供え物」「献げ物」

- |         |   |
|---------|---|
| 1. 献金   | 23 聖句 / 28 回 = 旧約 : 18 聖句 / 23 回、 <u>新約 : 5 聖句 / 5 回</u>  |
|         | 聖書全体で献金が含まれる聖句は 23 聖句、献金は 28 回登場する。<br>旧約聖書に献金が含まれる聖句は 18 聖句、献金は 23 回登場する。<br>新約聖書に献金が含まれる聖句は 5 聖句、献金は 5 回登場する。 |
| 2. 十分の一 | 57 聖句 / 67 回 = 旧約 : 47 聖句 / 54 回、 <u>新約 : 10 聖句 / 13 回</u>  |
| 3. 供え物  | 61 聖句 / 66 回 = 旧約 : 37 聖句 / 40 回、 <u>新約 : 24 聖句 / 26 回</u>  |
| 4. 献げ物  | 627 聖句 / 961 回 = 旧約 : 618 聖句 / 951 回、 <u>新約 : 9 聖句 / 10 回</u>   |

## ▶ 献げ物

献げ物は、私たちが神の愛と憐みによって生かされていることを思い起こし、忠実な神の恵みの管理者として、万物を所有される神から託されている資産（金銭）を、主のご栄光のために、そして人々の救いという祝福のために、神のみ国に直接お返しすることが出来る、神から与えられた素晴らしい恵みの特権（機会）である。

- 献げ物 {
- ① 什<sup>じゅう</sup> 一<sup>いち</sup> = 福音伝道支援に使われる（神様から与えられた総収入の）十分の一の聖なる献げ物  
→ マラキ書 3:10 ④「什一献金」：誤、「什一」：正（∵ 什一は献金ではない）
  - ② 諸献金 = 教会運営と維持を含む、教会の働きすべてに用いられる任意の献金（献げ物）  
什一（十分の一）を神に聖別し、残り 90% から献げられる。
    1. 恵みを経験し、その応答として献げられる贖罪の献金（献げ物）
    2. 神の守りと健康、繁栄等、神の祝福に対する感謝の献金（献げ物）
    3. 礼拝所（神殿）の建設と維持の献金（献げ物）
    4. 貧しい人たち、孤児、未亡人等、弱者に対する献金（献げ物） 他



**【参考】 神殿税** ④モーセの時代には、硬貨は使用されていない。→∴「聖所のシェケル」表記となっている。神殿税は律法（→出エジプト記 30:11～16、38:26）によって義務付けられ、聖所のシェケルで銀半シェケル、つまり労働者の二日分の平均的な賃金（＝2デナリオン＝2ドラクメ≒2万円）に相当しました。

▶出エジプト記 30：11～16（命の代償）→④命の代償（贖い金）としての献納物が神殿税の基礎となった。主はモーセに仰せになった。あなた（→モーセ）がイスラエルの人々の人口を調査して、彼らを登録させるとき、登録に際して、各自は命（KJB 欽定訳：soul＝魂）の代償（→聖書協会共同訳：命の贖い金）を主に支払わねばならない。登録することによって彼らに災いがふりかからぬためである。登録が済んだ者はすべて、聖所のシェケルで銀半シェケル（→重さの単位で、約 5.7 g）を主への献納物として支払う。一シェケルは二十ゲラに当たる。登録を済ませた二十歳以上の男子は、主への献納物としてこれを支払う。あなたたちの命を贖うために主への献納物として支払う銀は半シェケルである。豊かな者がそれ以上支払うことも、貧しい者がそれ以下支払うことも禁じる。あなた（→モーセ）がイスラエルの人々から集めた命の代償金は臨在の幕屋のために用いる。それは、イスラエルの人々が主の御前で覚えられるために、あなたたちの命を贖うためである。

▶出エジプト記 38 : 26

この額は二十歳以上の登録された者の総数、六十万三千五百五十人が一人当たり一ベカ、すなわち**聖所のシェケル**で（銀）**半シェケル**をささげたものに当たる。

▶マタイによる福音書 17 : 24

一行がカファルナウムに来たとき、**神殿税**を集める者たちがペトロのところに来て、「あなたたちの先生は**神殿税**を納めないのか」と言った。

あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っています。主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです（コリントの信徒への手紙二 8 : 9）。

キリストは私たちを救うために、豊かさを捨て、貧しくなられました。そして、ご自分の命を献げられました。キリストが失うことで、私たちが豊かさを得たのです。そのお方が弟子たちに「**全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい**」（マルコによる福音書 16 : 15）と、福音宣教の働きをお命じになられました。**什一と諸献金をささげ、自己犠牲の精神を実践し、この使命を果たすようにと、キリストは今も私たちを招いておられます。**